

静止画の作成2

担当: 佐藤

計算機実習III

第2回: 演習課題



sato@ise.aoyama.ac.jp

2019/4/16



課題の提出方法

提出先: CoursePowerの該当する提出窓口

● 提出物

- ▶ 完成した個々の課題のスケッチフォルダをまとめたzipファイル
- ▶ スケッチフォルダ名: **xyyyyyyyy_zz_ww**
 - x: 自分の青山メールの最初の文字
 - yyyyyyy: 自分の青山メールの2文字目以降の数字の並び
 - zz: 講義回
 - ww: 課題番号
 - (例)青山メールのアドレスが「a1234567@aoyama.jp」の場合の第1回の課題1のスケッチフォルダ名→「a1234567_01_01」
- ▶ zipファイル名: **xyyyyyyyy_zz.zip**
 - x: 自分の青山メールの最初の文字
 - yyyyyyy: 自分の青山メールの2文字目以降の数字の並び
 - zz: 講義回
 - (例)青山メールのアドレスが「a1234567@aoyama.jp」の場合の第1回の提出zipファイル名→「a1234567_01.zip」

● 提出期限

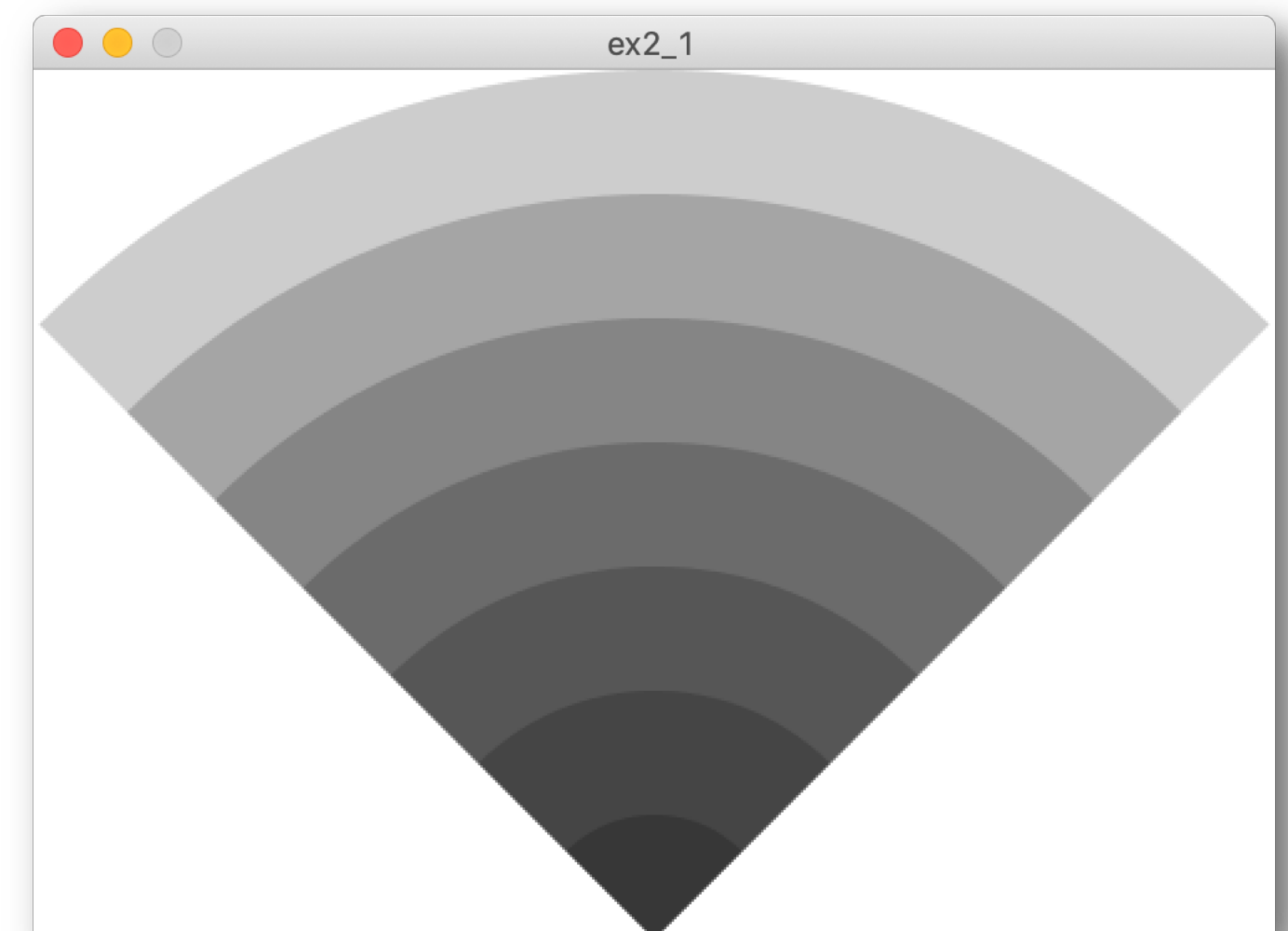
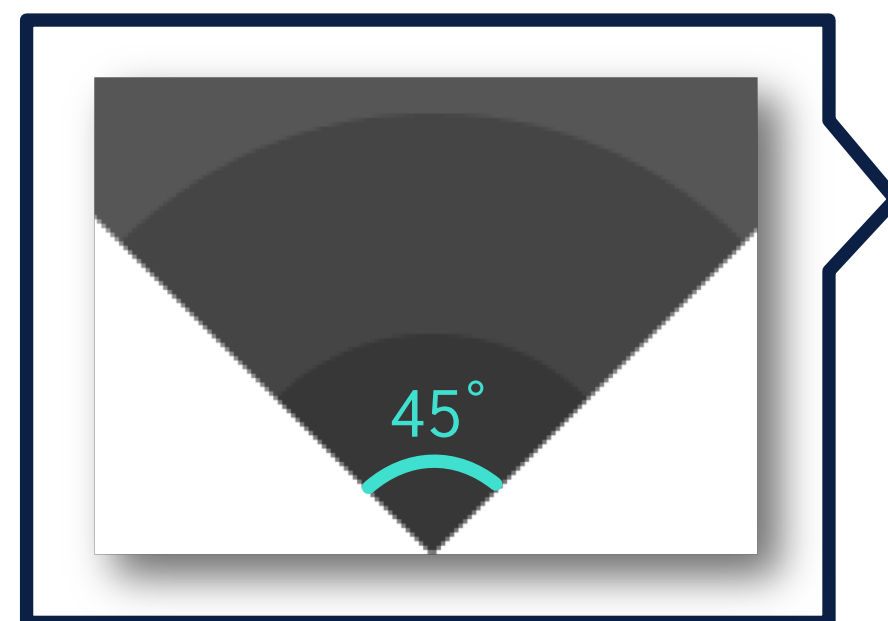
- ▶ 次回授業日0:00



課題2-1

xyyyyyyyy_02_01

- `arc()`を用いて半透明な扇型の図形を重ねて描くことで以下の静止画を作成せよ。
ただし、次の条件を満たすこと
 - ▶ ウィンドウサイズ: 500×350
 - ▶ 背景色: 白
 - ▶ 線色: 無効
 - ▶ 図形色: 黒(アルファ値: 50)
 - ▶ 中心角: 45°

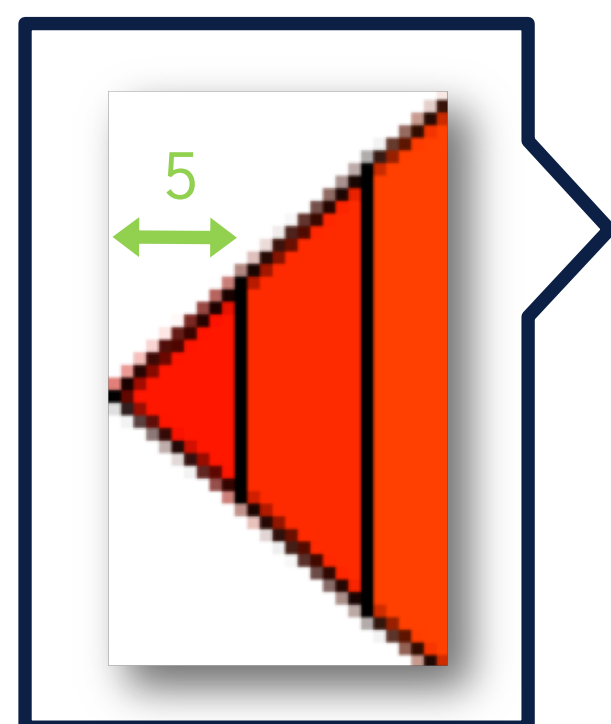




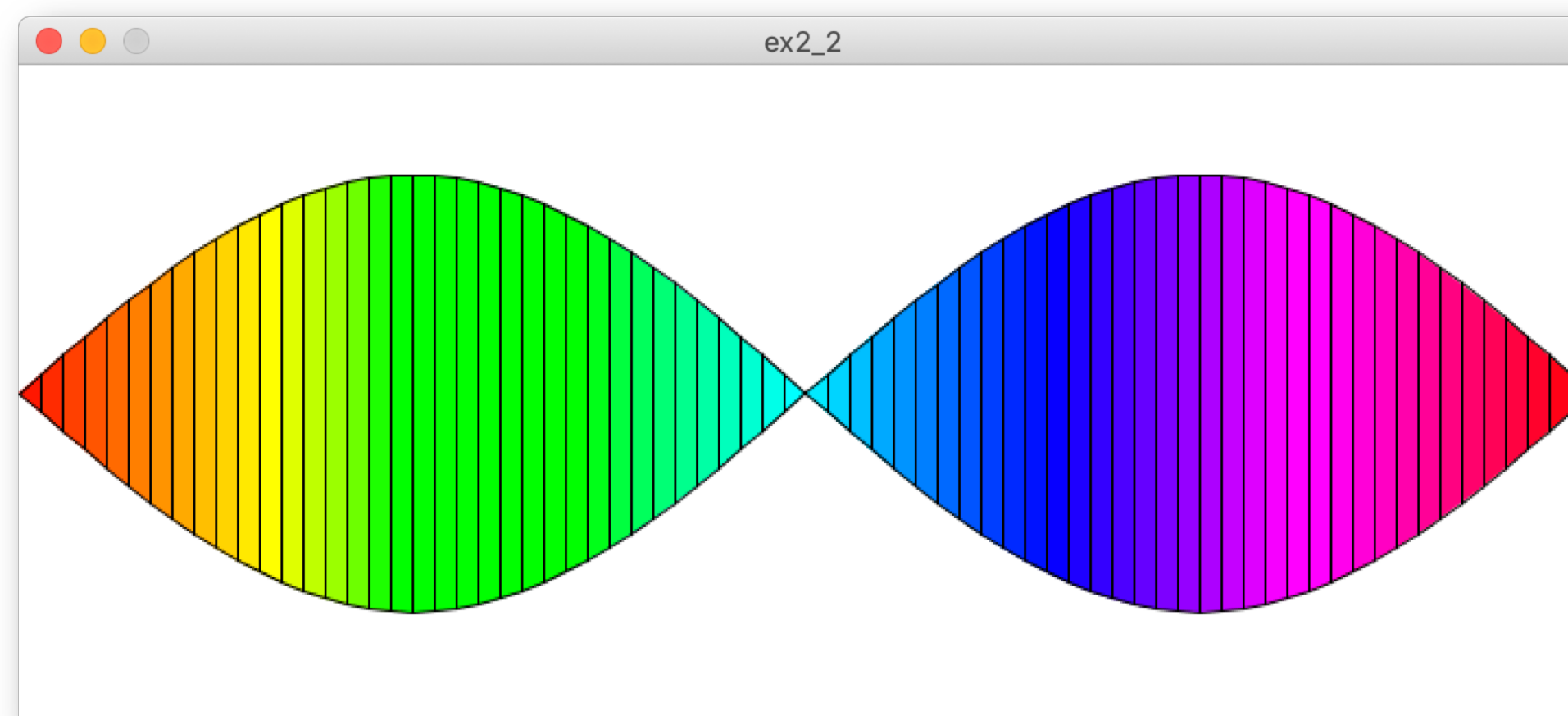
課題2-2

xyyyyyyy_02_02

- `beginShape(QUAD_STRIP)`を用いて上下に対象な2つのsin波(正弦波)からなる以下の静止画を作成せよ。ただし、次の条件を満たすこと
 - ▶ ウィンドウサイズ: 720×300
 - ▶ 背景色: 白
 - ▶ 色モデル: HSB
 - sin波の周期(360°)ごとに色が一巡するよう、区画ごとに色を徐々に変化させる
 - ▶ 各区画の幅: 5
 - ▶ 振幅: 100



100
100





課題2-3

xyyyyyyyy_02_03

- 以下の静止画を作成せよ．ただし，次の条件を満たすこと
 - ▶ ウィンドウサイズ: 500×500
 - ▶ 背景色: 白
 - ▶ 文字以外の図形を描く自作関数「drawCircle()」を定義してsetup()の中で用いる
 - 戻り値: void, 仮引数: void
 - ① 直径400の赤色の円を描く
 - ② アルファ値150の黒色の半円を赤色の円の下部に重ねて描く(半円の大きさは適宜調整せよ)
 - ▶ 文字を描く自作関数「drawName()」を定義してsetup()の中で用いる
 - 戻り値: void, 仮引数: void
 - フォント: 「YuGo-Bold-35.vlw」をCoursePowerからダウンロードして用いる(「第2回」→「フォント」)
 - テキストの大きさ: 180
 - テキストの色: 白
 - 表示する文字列: 「青学」
 - ▶ drawCircle()とdrawName()の中身はpushStyle();で始まりpopStyle();で終わる





課題2-4

xyyyyyyyy_02_04

- 以下の静止画を作成せよ。ただし，次の条件を満たすこと

- ▶ ウィンドウサイズ: 500×500
- ▶ 背景色: 白
- ▶ 図形色: 無効
- ▶ 線数: 12
- ▶ 線の太さ: 5～60
 - 隣り合う線の太さの差異: 5
- ▶ 線色: 0～255
 - 隣り合う線色の差異: 255/12
- ▶ 円の直径: 400

